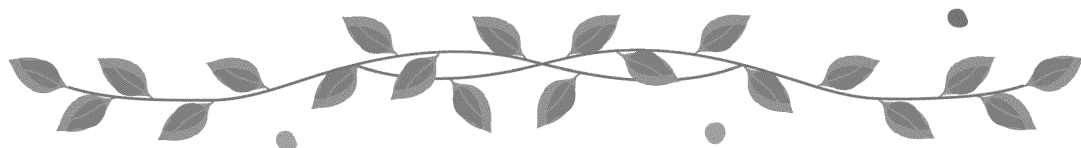


第4章 生徒の意識を育む授業展開例



I. 生活設計とワーク・ライフ・バランス

テーマ これからの家庭生活と社会 ～山形県の様々な取り組みから考えよう～

(1)人の一生と家族・家庭 イ家族・家庭と社会 (1) 家庭生活と社会

1 本時の目標

男女共同参画社会において、男女が相互に協力し家庭を築くこと、社会全体で協力することの重要性について認識する。

本県における仕事と生活の調和のための条件整備がどのように進んでいるか調べ、発表する。

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自己の将来に起こり得ることとして考えようとしている。	男女、社会全体が協力する重要性について考え、発表している。	仕事と生活の調和のための条件整備について、情報を収集し、必要な事柄を整理することができる。	

3 授業展開例

時間	学習活動（学習内容）	○発問 ★指示	●指導上の留意点 ◎評価【方法】 ◇支援等
5	*本時の学習テーマを知る		
90	*本県の共働き率と育児中の女性の有業率のグラフから現状を知る。(ワーク1) *共働きの利点と仕事と家庭の両立を推進する上での課題を探る。(ワーク2)	★本県の特徴について読み取りましょう。 ○共働きの利点と課題は何でしょう。 〈予想される生徒の発言〉 ・多忙で、自分の時間がとりにくい。 ・男性より女性が家事や子育てに充てる時間が多い。(不平等)	●2つのグラフを提示し本県の状況について知らせる。 ●「ワーク・ライフ・バランス及び男女共同参画に関する県民意識調査」等の補足資料を提示し、より具体的に考えさせる。
	*課題を解決するための県内の取り組みについて、資料やインターネット等を利用して情報を集める。(ワーク3) *収集した情報を班ごとにまとめ、クラス全体に向けた発表の準備をする。 *まとめた情報について、実物投影機、タブレットPCを用い、スクリーンに提示しクラス全体に説明する。 *発表を聞いて、評価や感想などをワークシートに記入する(ワーク4)	★本県の推進方策(県・地域・企業等)やキーワードについて調べましょう。 〈テーマ例〉 ・男性の育児家事参加促進 ・女性の活躍推進 ・ワーク・ライフ・バランス先進企業 ・待機児童〇 ・子育て支援 ★資料のポイント、他に知らせたいことをまとめましょう。 ★発表のシミュレーションをしましょう。 ★発表者は聞き手に伝わりやすいよう話し、聞き手は評価や気付いたことをワークシートにメモしましょう。	●例として「やまがた子育て応援プラン」を提示する。 ◎情報を収集し、必要な事柄を整理している。【ワークシート】 ◎男女、社会全体が協力する必要性について考え、グループ内で自分の意見を発表している。【発表の様子】 ◇机間指導をし、生徒の様子を見ながらアドバイスをする。 ●提示資料はスクリーンショットや実物投影機を利用し、説明・矢印の挿入や拡大表示など視覚化の工夫をさせる。
5	*本時の学習内容と各自の意見をまとめる。(ワーク5)	★ワークシートに記入しましょう。	◎自己の将来に起こり得ることとして考えようとしている。【ワークシート】

ワークシート

これからの家庭生活と社会 ～山形県の様々な取組みから考えよう～

ワーク1 二つのグラフから山形県の特徴を読み取ろう。

ワーク2 上記のような働き方について利点と課題を考えよう。

利点	課題

ワーク3 上記の課題を解決するために本県ではどのような取組みが行われているか調べ発表しよう。

手順①山形県ホームページ(子育て・結婚/男女共同参画等)、パンフレット等を参考に調べる。
(個人)

手順②班ごとに資料をまとめ、発表原稿を作成する。(4人～5人班)

手順③クラス全体に向けて発表する。(全体) 発表はタブレットPC、実物投影機を使用する。

注意①スライド等は作成しなくて良い。ポイントとなる部分を拡大表示する、矢印を書き加える等工夫して、皆に注目してもらえるようにすること。②発表時間は3～5分。③感想や意見も述べること。

メモ

ワークシート

ワーク4 各班の発表を聞いて評価しよう。

班	発表内容	わかり易さ	発表内容の良かった点や疑問点等
	A B C	A B C	
	A B C	A B C	
	A B C	A B C	
	A B C	A B C	
	A B C	A B C	
	A B C	A B C	
	A B C	A B C	
	A B C	A B C	
	A B C	A B C	

A 大変良い B 良い C もう少し工夫が必要

ワーク5 授業のまとめをしよう。

注目する取組み・提案したいアイデアはありますか。

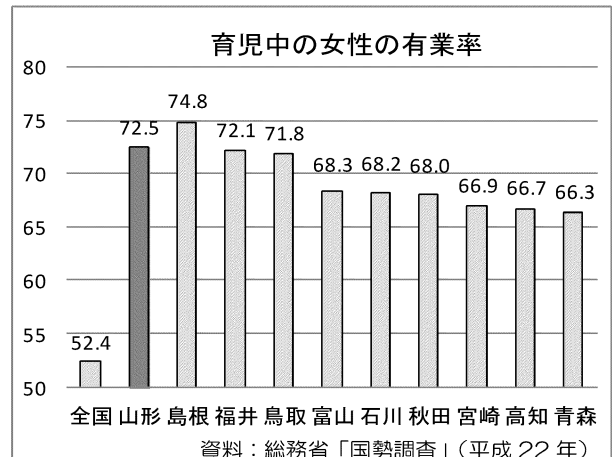
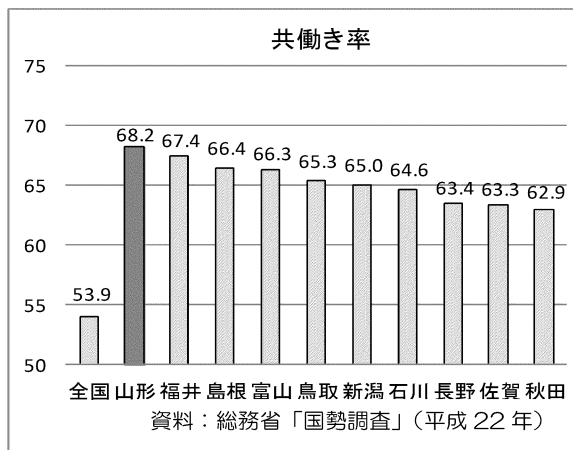
自分は将来どんな働き方をしたいか、結婚後や育児期間中の働き方はどうしたいかなど含めて書いてみよう。

資料

☆生徒全員への提示資料 これからの家庭生活と社会 ～山形県の様々な取組みから考えよう～

グラフ1 共働き率(全国1位)

グラフ2 育児中の女性の有業率(全国2位)



※「共働き率」
 就業者である夫婦のいる一般世帯に占める夫婦共に就業者である世帯の割合

※「育児中の女性」25歳～44歳の育児をしている女性

補足資料：平成26年度男女共同参画白書より

グラフ3 ワーク・ライフ・バランスの実践

質問項目「家庭生活、仕事、地域活動に関わり、バランスのとれた生活を過ごしているか」

[男女別・全体・前回調査との比較]

女性N=941 男性N=685 全体N=1,659 H21年度意識調査N=1,339

■ そう思う □ そう思わない □ どちらともいえない □ 無回答

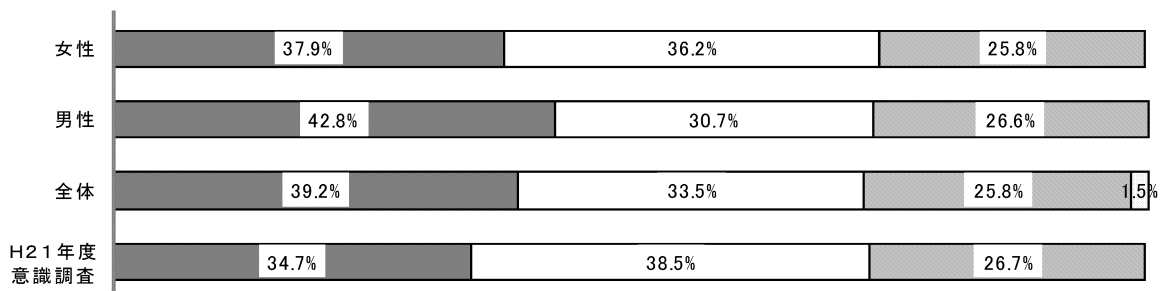


表1 平均1日当たりの所要時間 (男女別 単位:分)

質問項目「あなたは平日および休日1日当たり、次の事柄にどのくらい時間をかけていますか」

項目	女性		男性	
	平日	休日	平日	休日
ア. 仕事(通勤時間を含む)	482.9	51.5	547.2	61.9
イ. 家事(炊事洗濯の他、草取り・除雪・車の手入れ等も含む)	169.5	192.9	51.7	87.2
ウ. 育児	142.9	266.6	20.0	82.6
エ. 介護・看護	57.2	74.5	61.8	109.6
オ. 買い物	35.3	65.5	16.6	41.8
カ. 余暇(趣味や娯楽等、自分の好きなことをして過ごす時間)	82.8	133.2	93.8	196.5
キ. 地域活動(子どもの見守りや防犯・防災、美化活動等)	3.1	4.4	8.6	16.3
ク. ボランティアやNPO活動	3.4	2.6	5.5	10.0
ケ. その他	4.8	3.3	4.7	6.1

Ⅱ. 男女が協力して家庭・社会を築くことの重要性

テーマ 男女が共に生きる

～県内高校生の「結婚・子育て・仕事等」についての意識調査を活用して～

(1) 人の一生と家族・家庭 イ家族・家庭と社会 (イ) 家庭生活と社会

1 本時の目標

結婚や子育てに対する男女間の意識の差が、家庭生活に影響を及ぼすことを理解する。

よりよい家庭・社会を築くためには、男女が協力していくことが重要であり、そのために男女それぞれどのような意識や行動が必要であるか考える。

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	よりよい家庭や社会を築くために、男女が協力していくことが重要であり、そのためにそれぞれにどのような意識や行動が必要であるか考えたり、発表したりしている。		結婚や子育てに対する男女間の意識の差が、家庭生活に影響を及ぼすことを理解している。

3 授業展開例

時間	*学習活動（学習内容）	○発問 ★指示等	●指導上の留意点 ◎評価【方法】 ◇支援等
5	*本時の学習内容を確認する。 *男女差がある回答で、気になるものを複数選ぶ。 ・前時に意識調査結果を見て、男女差がある回答を確認している。	★意識調査（※）の質問項目（項目番号；8、10、14、15、16）に対して男女差があった回答がいくつかありましたが、その中で気になるものを選びましょう。 ※本事例集第1章参照	●グループは男女3～4人で構成し、それぞれの立場で理由や意見が出せるようにする。A～D（班長、進行、記録、準備）に割り振っておく。 ●選ぶ回答が同じ項目に偏らないようにする。
35	*男女差があった回答について、理由や意見等話し合う。（10分） *各グループの代表者は発表する。発表時間1分×5グループ（5～7分） *男女間の意識の差によって、家庭生活にどのような影響を及ぼすか話し合う。（10分） *グループの代表者が発表する。発表時間1分×5グループ（5～7分）	○なぜ回答に男女差が出たのでしょうか。 ★男女それぞれの立場での理由や意見をまとめ、発表しましょう。 ○男女間の意識の差によって、家庭生活にどのような影響を及ぼすでしょうか。 ★話し合った内容を発表しましょう。	●理由の背景について話し合うよう促す。 ●全員が発表者であるという意識を持たせるため、発表者は教師が指名する。 ◇夫婦や親子関係、子育てにおいて、どのような影響を及ぼすか話し合うよう助言する。 ◎男女間の意識の差が、家庭生活に影響を及ぼすことを理解している。【ワークシート】
10	*よりよい家庭・社会を築くためには男女それぞれにどのような意識や行動が必要か考える。 *2～3人、発表する。	○よりよい家庭・社会を築くためには男女それぞれにどのような意識や行動が必要でしょうか。 ★男女それぞれの理由や意見を踏まえて考えましょう。	◎よりよい家庭・社会を築くためには男女が互いを理解し協力していくことが重要であり、そのためにそれぞれがどのような意識や行動が必要であるか考えている。【ワークシート】

ワークシート

「男女が共に生きる」

1. 「結婚・子育て・仕事等」についての意識調査において、男女差があった回答を取り上げ、男女それぞれの立場で話し合しましょう。

項目番号	回 答	割合(%)	理由・意見等
		男	
		女	
		男	
		女	
		男	
		女	

*上記より、男女間にどのような意識の差があるかまとめましょう。

.....

.....

.....

2. 男女間での意識の差によって、家庭生活にどのような影響を及ぼすか話し合しましょう。

.....

.....

.....

3. よりよい家庭・社会を築くためには男女それぞれにどのような意識や行動が必要か考えましょう。

.....

.....

.....

年 組 番 氏名

Ⅲ. 親や家族の役割・子供との関わり方

テーマ 子育てにおける保護者の役割と保育の重要性を考える

(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 ア子どもの発達と保育・福祉 (り) 親の役割と子育て支援

1 本時の目標

子供の健やかな発達を支える親の役割と保育の重要性を理解させるとともに、シナリオ作りを通して、子供の気持ちに寄り添ったり、親の関わり方の重要性について考えたりすることができる。

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	親の役割や子供を生き育てることの意義について考え、まとめたり、発表したりしている。		乳幼児期における親や家族の関わり方、家庭生活が果たす役割の重要性について理解している。 ・愛着の形成 ・社会的な規範

3 授業展開例

時間	*学習活動(学習内容)	○発問 ★指示	●指導上の留意点 ◎評価【方法】 ◇支援等
5	*本時のねらいと学習の流れを知る。		
45	*保育の一場面から、登場人物それぞれの気持ちを想像し、セリフを考えシナリオ作りをする。 〈各自〉	★保育場面を読み、取り組もうとする場面を一つ選びなさい。 ★登場人物の気持ちを想像してみよう。 ★登場人物のセリフを考え、その後の展開のシナリオをつくりましょう。 ○シナリオのように展開したとき、登場人物の気持ちはどのように変化しましたか。	●登場人物それぞれの立場に立って考えさせるようにする。 ◇登場人物の心情に寄り添えているか声掛けする。 ◇親の役割について考えているか声掛けする。
35	*同じ場面について考えた者同士のグループで交流する。 〈グループ〉	★同じ場面に取り組んだ人と意見交換をします。登場人物の気持ち、セリフ、その後の気持ちについて、交流しましょう。	◇交流が深められるように声掛けする。
15	*自分の考えたものと他の生徒が考えたものを比較して、気付いたことや考えたことをまとめる。 〈各自〉 *2~3人が発表する。	○あなたの考える親の役割とは何ですか。 ★他の人の意見を聞いて、気付いたことや考えたことをまとめましょう。	◎乳幼児期における親や家族の関わり方、家庭生活が果たす役割の重要性について理解している。【ペーパーテスト】 ◎親の役割や子どもを生き育てることの意義について考え、まとめたり、発表したりしている。【ワークシート】

保育場面の設定シート

No	場面	子の発達段階 登場人物	具体的な状況
1	おむつ 交換	乳児期（生後 10か月） 一人目の子供を 育てる若夫婦	ある休日のお昼どき。マサトが真っ赤な顔をしていきみ、ぷうとおならをしています。しばらくすると大きな声で泣き出しました。そばでテレビを見ていた父親が、昼食の準備をしている母親に向かって「なんか臭いな。お～い、マサトがウンコしたみたいだぞ。」と声をかけました。
2	発熱	幼児期（2歳） 共働きの夫婦	平日の朝、ぐずったり泣いたりして元気のないユウカを、母親が抱っこしてみると、どうも熱がありそうです。測ってみると38度5分の熱がありました。母親は「今日、取引先と約束があるの。あなた休めない？」と言うと、父親が「おれも大事な会議があるんだ。おれが提案者になっているから、困ったな。」との答えが返ってきました。
3	買い物	幼児期（3歳） 母親 他の買い物客	母親がアオイを伴って、近所のスーパーマーケットに買い物に行きました。子供用のカートに乗せようとしても、自由に動き回りたいアオイは乗ろうとしません。仕方なく、店内に入りました。真っ先にお菓子コーナーにかけて行ったアオイは、欲しいお菓子を見つけて「買って、買ってー。」と駄々をこねています。いくら母親がたしなめても、床に転げて泣き叫んで止まりません。母親は、他の買い物客の手前もあり困り果てています。
4	公園の すべり 台	幼児期（4歳） 父親 公園の親子	ユウタは、父親と公園に遊びに行きました。大好きな滑り台に乗りたくて、真っ先にそちらに走って行きました。順番を待っていた子供を押しつけて滑っています。その子供は泣き出し、その子の母親から「順番を守ってね」と声をかけられますが、ユウタは「嫌だよ。早く乗りたいんだもん。」と言うことを聞きません。その母親から、「お父さんも、子供さんにルールを守るよう注意してください。」と強い口調で言われてしまいました。
5	おやつ	幼児期（5歳） 母親 祖父母	母親とケンタが、祖父母の家に遊びに来ました。祖父母は、かわいい孫が来ることを毎回とても楽しみにしています。今日は、孫に食べさせようと、ケーキにチョコレート、ジュースなどたくさん買い込んで待っていました。「好きなだけたべていいよ。（祖父母）」「ありがとう。おじいちゃんもおばあちゃんも大好き！（ケンタ）」とニコニコ顔です。一方母親は困り顔で、言葉に詰まってしまいました。

※ 親子の関係だけでなく、幼児教育施設の保育者と子供、幼児教育施設の保育者と保護者、幼児と幼児等、学習のねらいに応じて、多様な人間関係・場面の設定が考えられる。

※ この学習の後、実際に役割を決めて、ロールプレイングに取り組むことも考えられる。セリフに思いを込めてみたり、湧き上がる感情を体験してみたり、さらにその先の展開まで即興で演じてみることを通して、親子が折り合いながら協力していくことについて考えさせることもできる。

ワークシート

登場人物の気持ちを想像し、その後の展開を考えてシナリオを作ろう

1 選んだ場面

2 この場面のそれぞれの登場人物の気持ちを書いてみよう。

登場人物① ()・・・ _____

登場人物② ()・・・ _____

登場人物③ ()・・・ _____

登場人物④ ()・・・ _____

3 このあとの展開を考えて、登場人物のセリフを書いてみよう。

() 「 _____ 」

() 「 _____ 」

() 「 _____ 」

() 「 _____ 」

4 あなたが作ったシナリオのような展開のとき、それぞれの登場人物の気持ちはどのように変化するでしょう。それぞれ考えてみよう。

登場人物① ()・・・ _____

登場人物② ()・・・ _____

登場人物③ ()・・・ _____

登場人物④ ()・・・ _____

5 同じ場面に取り組んだグループ毎に交流し、考えたこと、気付いたことを書きましょう。

.....
.....
.....
.....
.....

6 あなたの考える「親の役割」とは何ですか。考えをまとめましょう。

.....
.....
.....
.....
.....

年 組 番 氏名 ()

IV. 子育て環境と子育て支援①

テーマ 地域の子育て環境について考える

(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 ア子どもの発達と保育・福祉
(ウ) 親の役割と子育て支援 (I) 子どもの権利と福祉

1 本時の目標

地域の子育て環境について調べ、その現状を理解する。

地域の子育て環境の利点や課題を見出し、子育て環境をよりよくするために何が必要か考えることができる。

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	地域の子育て環境の利点や課題を見だし、子育て環境をより良くするために何が必要か考えている。	地域の子育て環境について必要な資料を収集・整理することができる。	地域の子育て環境の現状について理解している。

3 授業展開例

時間	*学習活動（学習内容）	○発問 ★指示等	●指導上の留意点 ◎評価【方法】 ◇支援等
10	*本時の学習内容を知る。 *各自、理想の子育て環境について考える。 住まい、自然環境、交通の便、家族構成、育児・家事の協力、経済的支援、仕事の有無・育休の活用、保育環境 等 *地域の子育て環境をより良くするために必要なことは何かを考え、ワークシートに記入する。	★どういう環境のもとで子育てしたいか考えてみましょう。 ○地域の子育て環境をより良くするために何が必要でしょうか。	●子育てシミュレーションによって、具体的に考えさせる。
40	<u>エキスパート活動</u> *地域の子育てにかかわる環境について調べる。 ・住まい；①自然環境（食べ物含む） ②周辺の施設や交通の便等 ・保育環境；③保育所、幼稚園、遊び場等 ④子育て相談、情報交換の場	★みなさんが住んでいる地域の子育て環境を、タブレットPCを使って調べてみましょう。 ★グループ内で調べるテーマ（①～④）を指示する。	◇机間指導 ◎地域の子育て環境について必要な資料を収集・整理することができるか。【ワークシート】 ◇それぞれが、調べた情報を相手に分かりやすく伝えるために、ポイントをまとめるよう声掛けする。 ◇分からない点は積極的に質問するよう声掛けする。 ◎地域の子育て環境の現状について理解している。【ワークシート】 ◇地域住民の子育てに関するアンケート結果を資料として提示する。 ◎地域の子育て環境の利点や課題を見だしている。【ワークシート】
25	<u>シグソー活動</u> *各エキスパートが調べたことを発表し合い、情報交換する。 *各自が思い描く子育て環境を踏まえ、地域の子育て環境の利点や課題をあげる。	★各自が調べたことを発表し合いましょう。 ★地域の子育て環境の利点や課題をグループ内であげましょう。	
15	<u>クロストーク</u> *グループ毎、発表する。（10分） 発表時間；約1分×10グループ	★グループ毎発表しましょう。	●地域の子育て環境の利点と課題を全体で共有できるようにする。
10	*ここまでの活動を踏まえて、各自の考えをもう一度まとめる。	○地域の子育て環境をより良くするために何が必要でしょうか。	◎子育て環境をより良くするために何が必要か考えている。 【ワークシート】

地域の子育て環境を考える

●自分が思い描く子育て環境を書いてみよう。

1. 家族構成 *親と同居の有無も	
2. 仕事の有無	*するとした場合、育休は誰がとるか等
3. 住まい	
4. 保育環境	

●地域の子育て環境をより良くするために必要なことは何だろう。

--

【エキスパート活動】

●地域の子育て環境を調べよう。

自分が調べるテーマは・・・

--

- ①自然環境(食べ物含む) ②周辺の施設や交通の便等
③保育所、幼稚園、遊び場等 ④子育て相談、情報交換の場

ワークシート

【ジグソー活動】

- 各エキスパートが発表したことをまとめよう。

テーマ；()
テーマ；()
テーマ；()

- 地域の子育て環境の利点と課題は何だろう。

*自分が思い描く子育て環境と地域の子育て環境の現状を照らし合わせて考えよう。

利 点
課 題

【各グループの発表を聞いて】

- 地域の子育て環境をより良くするために必要なことは何だろう。

--

V. 子育て環境と子育て支援②

テーマ 子供を生み育てる意義や子育てを支えるために社会に求められる支援とは何か考える

(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 ア子どもの発達と保育・福祉
(り) 親の役割と子育て支援 (I) 子どもの権利と福祉

1 本時の目標

少子化の現状や子育てに関する意識調査の資料から、子育てを取り巻く環境整備の必要性を理解し、社会全体で子供の育ちを支えることについて考えたり、まとめたりすることができる。

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	子供を生み育てることの意義や子育て環境における課題について考え、まとめたり、発表したりしている。		

3 授業展開例

時間	*学習活動(学習内容)	○発問 ★指示	●指導上の留意点 ◎評価【方法】 ◇支援等
5	*本時の学習テーマを知る *本時の学習の流れを知る		●本時の課題を板書し、活動の流れを説明する。
35	*各自で課題について考える。	○子供を生み育てる意義や子育てを支えるために社会に求められる社会の支援とは何ですか。	●エキスパートが資料をしっかりと読み込み、自分のものにできるようにさせる。
	エキスパート活動 課題に迫るヒントとなる資料を読み、同じ資料を持つグループで内容を確認し合う。 A「子育てをして良かったこと、子育ての楽しみ」 B「子育てで困っていること、助けてほしいこと」 C「子育て支援のいろいろ」	★エキスパート資料をしっかりと読み、内容を説明できるようにしましょう。 ★資料の大事なところにマーカーでチェックしながら、読み進めましょう。	
	ジグソー活動 各エキスパートが資料の情報を交流し、課題に迫る。	★各自の資料の要点をまとめて発表しましょう。 ★資料をそのまま見せたり、読み上げたりするだけの伝え方にならないようにしましょう。	
	クロストーク 各グループの協議内容を発表し、聞き合う。	★他の人の発表を聞いて、気付いたことはメモを取るようにしましょう。	◇各エキスパートが資料の情報を自分の言葉で相手に伝えられるよう助言する。新しい情報、大事だと思う情報はメモをとりながら聞くよう助言する。 ◇他のグループの意見からの気付きを、メモを取らせながら聞くよう助言する。
10	*ここまでの活動を踏まえて、各自の考えをもう一度まとめる。 *2~3人が発表する。	○子供を生み育てる意義や子育てを支えるために社会に求められる社会の支援とは何ですか。	◎子供を生み育てることの意義や子育て環境における課題について考え、まとめたり、発表したりしている。【ワークシート】

ワークシート

考えてみよう：子供を生み育てる意義や子育てを支える社会の支援とは何か

【学習のはじめに】

- 自分が考える「子供を生み育てる意義」「子育てを支えるために社会に求められる支援」について書いてみよう。

【エキスパート活動】

- 資料から読み取ったことを簡潔にまとめよう。

【シグソー活動】

- 新しく知ったこと、参考になった意見は・・・

【交流活動をした後に】

- 子供を生み育てる意義や子育てを支える社会の支援とは何か、もう一度自分の考えをまとめてみよう。

1年 組 番 氏名 ()

資料

【エキスパート資料A】子育てをして良かったこと、子育ての楽しみ

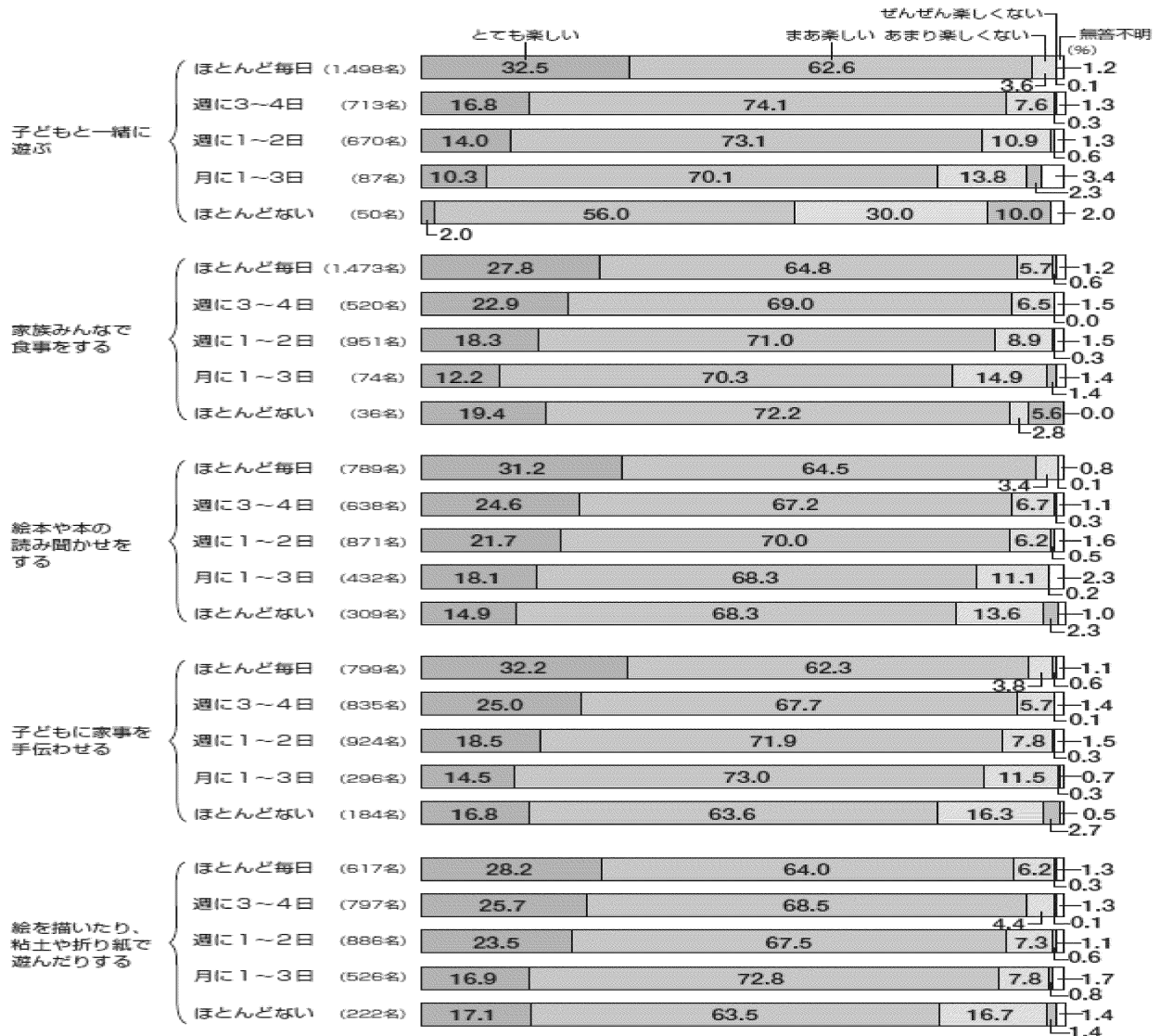
資料1 子供を育てていてよかったと思うこと

1	子供の成長に喜びを感じる	83.1%
2	子供のおかげで家庭が明るい	74.7%
3	子供との触れ合いが楽しい	70.0%
4	兄弟姉妹どうしの触れ合いがあって楽しい	69.0%
5	家族の結びつきが深まった	61.8%
6	子供を通して自分の友人が増えた	60.3%
7	毎日の生活に張りがある	49.4%
8	子育てを通して自分の視野が広まった	46.2%

(厚生労働省「第6回21世紀出生児縦断調査」2006より)

資料2 子育てを楽しんでいると感じる(子どもと一緒にすることの頻度別)

図1-6-6 子育ての楽しさ(子どもと一緒にすることの頻度別)



注1) 12項目のうち、5項目を図示した。
注2) 「子どもと一緒にすること」での無答不明は省略した。

(ベネッセ教育総合研究所「第3回子育て生活基本調査」より)

資料③イクメンプロジェクト（厚生労働省HPより）

30代男性 掲載ニックネーム：しゅう 小学校教諭 お住まいのエリア：埼玉県

育休・育児体験談

現在、1年間の育児休暇をとっています。2児の父親として2度目の育休です。

育休をとることになったきっかけは妻に「父親も育休とれるみたいだからとってみたら？」と言われたことでした。そして、1人の子にとってたった1度しかないじっくり子どもと向き合えるチャンスなので2度目もとってみようかと決意しました。

1人目の時は育児・家事に追われましたが、おむつ替え・離乳食・お風呂・寝かしつけ・掃除・洗濯・料理・片づけと少しずつ成し遂げていくことで大切さと大変さを実感できました。とくにいざ1日子どもと一緒にになると何をしていたかわからないと思っていましたが、つどいの広場に行き手遊びや読み聞かせの技を習得できました。それは今でも生きていて先日、長男の保育園に行った時、子どもたちに手遊びと読み聞かせをさせてもらいました。

2人目の今、もちろん育児・家事はやりますが、働いていた時には手が回らなかった物でいっぱいになった我が家の収納の充実、私と長男の習い事を始める心のゆとりができました。この心のゆとりにより仕事が始まってからも習い事は続けていけそうです。また、1人目の育児休暇の時、ワークライフバランスについて講話を聴きました。育児休暇をとった1年間で仕事にブランクがでるところか仕事の整理ができて職場復帰してから効率よく仕事を進めることができました。来年度より職場復帰してからも仕事を計画的に進め定時に終わらせ、子どもを保育園に迎えに行き、晩御飯の支度をし、子どもや妻と毎日コミュニケーションをとる、習い事も頑張っていきます。

ただ、職場全体が定時に帰宅できる雰囲気でも仕事内容でもありません。職場全体がワークライフバランスの共通理解をし、仕事内容の改善を図れるように提案をしていきます。

自分の人生なのでやりたいことをやってくれないように楽しみたいと思います。1人目の育児休暇に始めた禁煙も5年目突入です！



妻の出産の日からスタートして息子が1歳になるまでの1年間、育児休暇を取りました。

自分も育児を経験し、いろんな意味で将来に備えようと考えたからです。

試練は育休の初日から起きました。出産は難産、帝王切開で産まれた息子は産まれてすぐに大きな病院に搬送。

妻と息子は離れ離れ、出産から数日間、搾乳した母乳を息子のところへ運び、僕が哺乳瓶で飲ませます。そんな状態からはじまりました。今考えても育休を取って置いて本当によかったと感じます。

そして妻も息子も順番に退院し、3人揃って家での生活が始まりました。

育休中は様々なセミナーに参加しました。それは父親業をするために必要なスキルを得るためです。内容は「家事育児」「新しい働き方」「ダイバーシティ」「ワークライフバランス」等々。有料の父親学級の講座も受講しました。

一方で、近所の自治体やボランティア主催の「赤ちゃんひろば」や「子育てひろば」、児童館の「赤ちゃんクラス」等々にも毎回参加しました。

ここでは50人近くいるママ達(女性)の中に男はいつも僕ひとりです。社会の現実を見ました。子育てに疲れているようなママも多かったです。

僕はできる限りママたちと話をし、パパの意識がどうすれば変わるかを男の立場として伝えてきました。パパを巻き込むためにパパ参加型のピクニックも開催し、ここでは思わぬパパ友もできて一石二鳥でした。

育休が終わり職場復帰後はセミナーで学んだ「定時退社」を実践し、毎日家族そろって夕食を食べ、息子と一緒に風呂へ入り、団らんの時間を確保しています。

一番大変な時期の育児をひととおり経験し、柔軟な働き方も実践していますので、妻がいつでも再就職しても大丈夫な状態になっています。

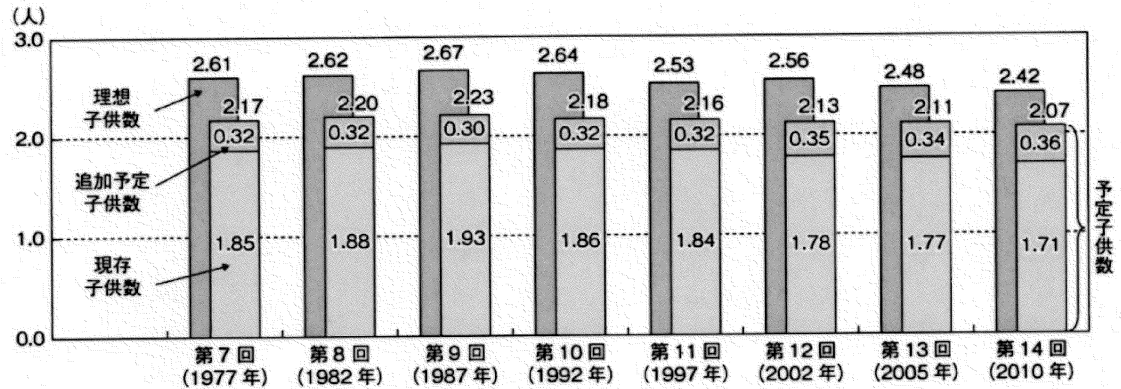
そういう意味では育児は男を磨く「男の活躍の場」でもあるなと体験をもって感じました。



安藤紀彦
40代男性 子供1人

【エキスパート資料B】子育ての不安、助けてほしいこと

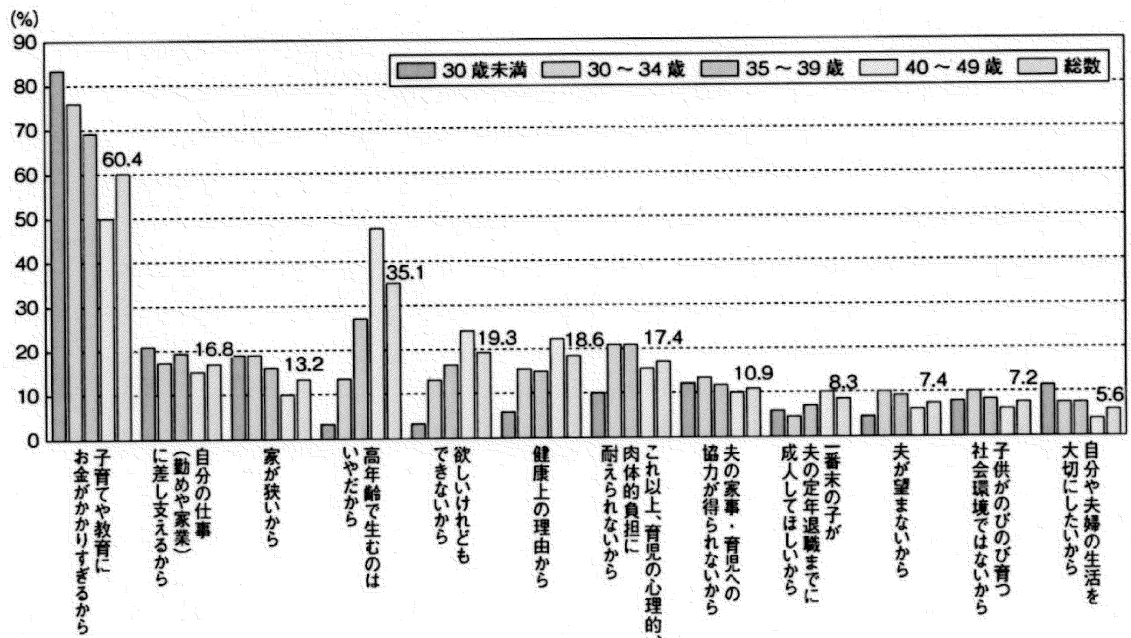
資料1 理想の子供数と予定子供数



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2010年）

注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子供数は現存子供数と追加予定子供数の和として算出。総数には結婚持続期間不詳を含む。各調査の年は調査を実施した年である。

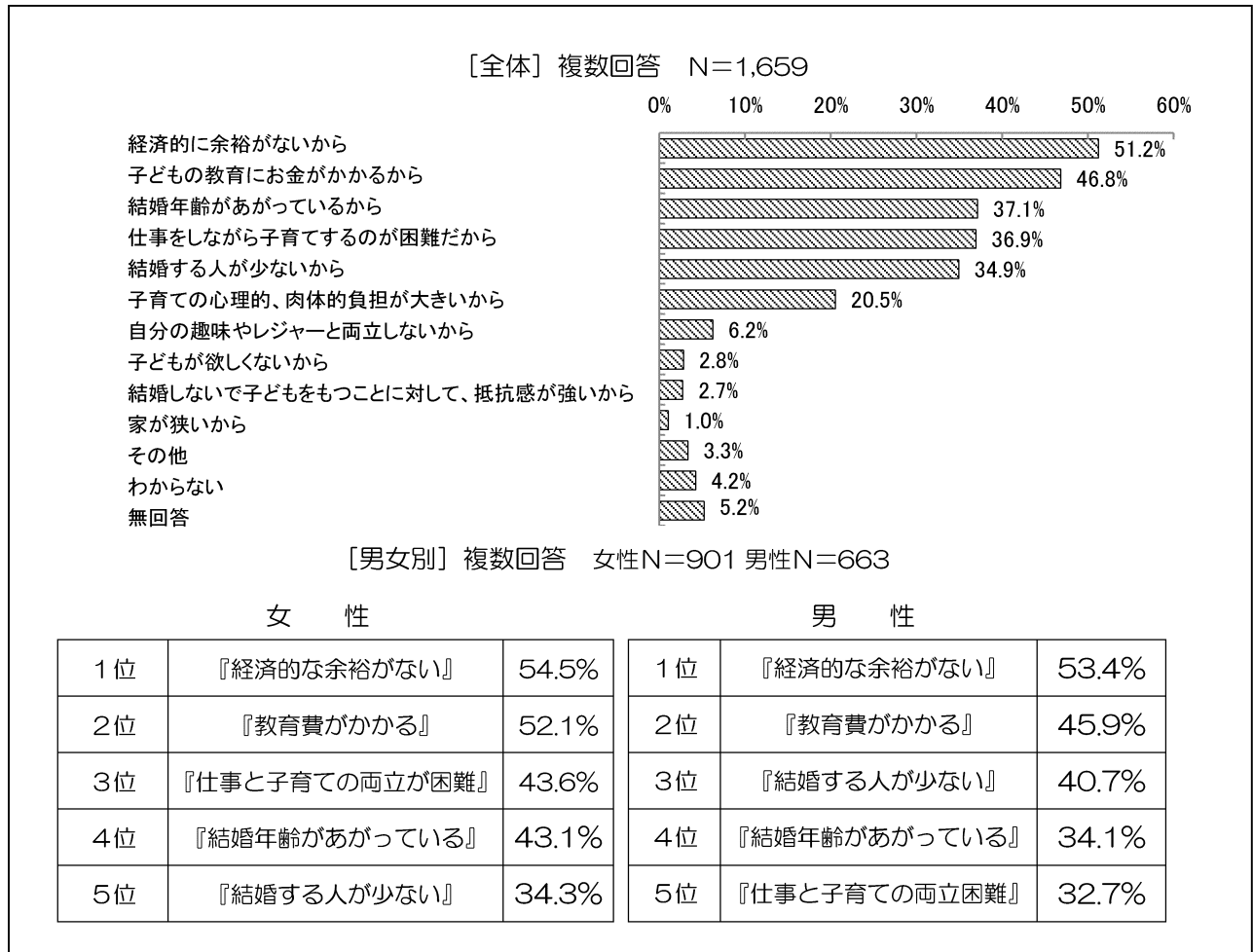
資料2 理想の子供数を持たない理由



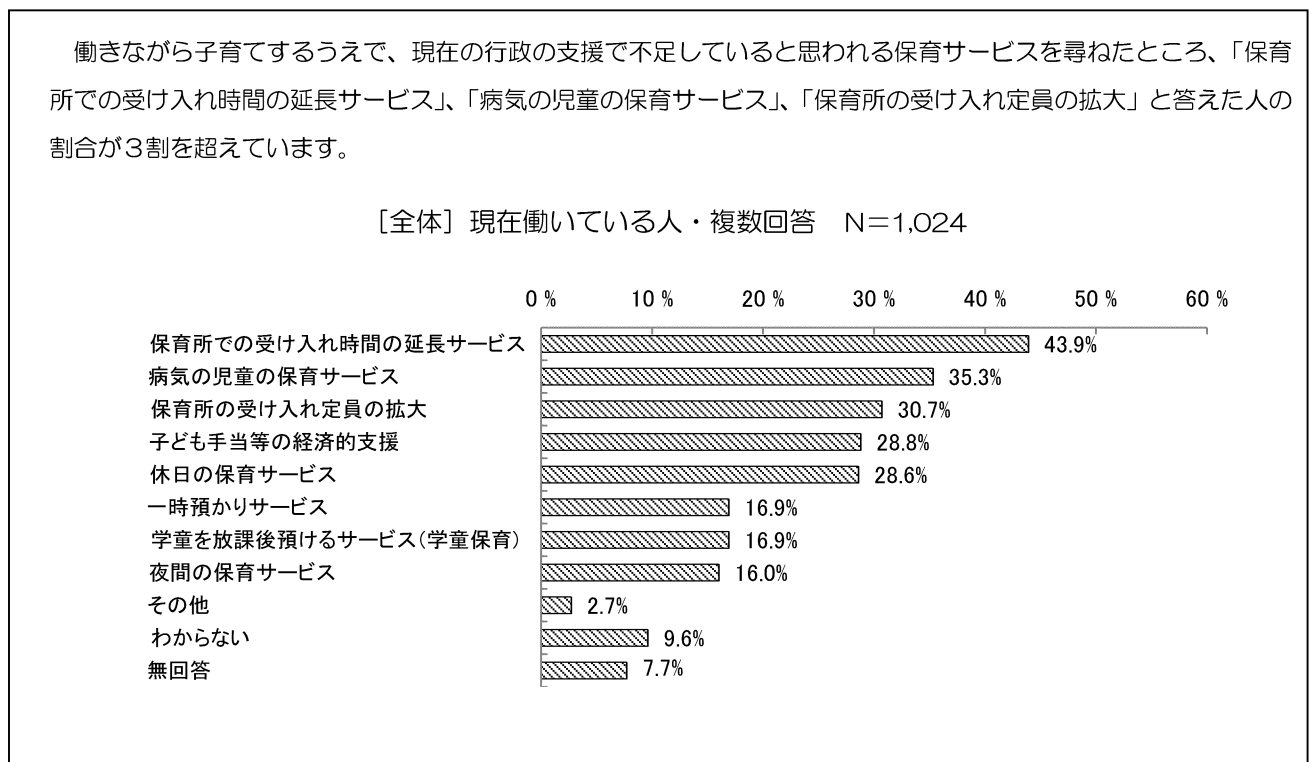
資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2010年）

注：対象は予定子供数が理想子供数を下回る初婚どうしの夫婦。予定子供数が理想子供数を下回る夫婦の割合は32.7%。

資料3 出生数が減少している要因として考えられること (H26 山形県男女共同参画白書より)

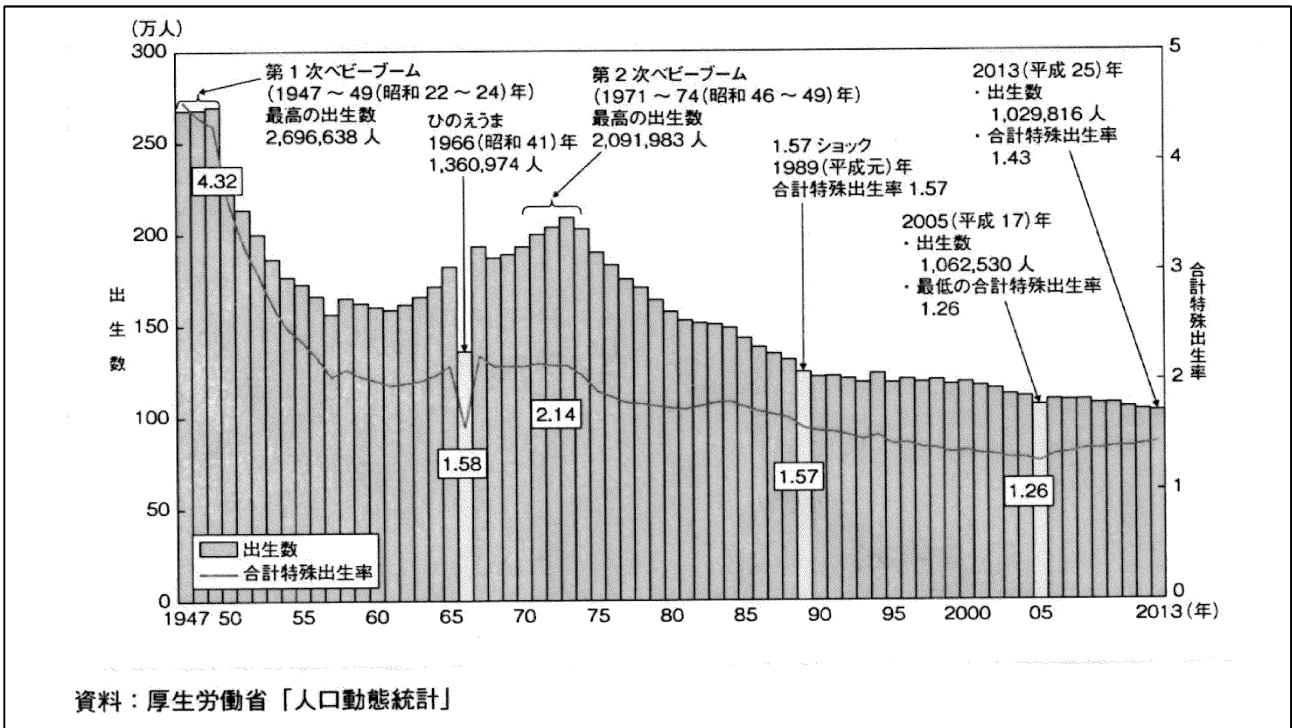


資料4 子育てに不足している行政支援 (H26 山形県男女共同参画白書より)



【エキスパート資料C】子育て支援のいろいろ

資料1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



資料2 保育所、幼稚園、認定こども園

	保育所	幼稚園	認定こども園
所管	厚生労働省	文部科学省	文部科学省・厚生労働省
根拠法令	児童福祉法に基づく児童福祉施設	学校教育法に基づく学校	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律
目的	「日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育すること」(児童福祉法第39条)	「幼児を教育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」(学校教育法第22条)	幼稚園及び保育所等における小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援を総合的に提供
設置者	地方公共団体、社会福祉法人等(児童福祉法第35条)。設置に当たっては知事の許可が必要である(児童福祉法第35条)。最近、社会福祉法人以外の企業、学校法人等が設置することも認められるようになった。	国、地方公共団体、学校法人等(学校教育法第2条、附則第6条)。設置に当たっては、市町村立幼稚園の場合は都道府県教育委員会、私立幼稚園の場合は知事の許可が各々必要である。従来も102条(附則第6条)による例外規定により、個人立も認められていたが、最近、学校法人以外の企業、社会福祉法人等が設置することも認められるようになった。	1. 幼保連携型(認可保育所と認可幼稚園が連携して運営する) 2. 幼稚園型(認可幼稚園が長時間保育・子育て支援等の保育園の機能も備える) 3. 保育所型(認可保育所が保育に欠ける子ども以外の子どもも受け入れる) 4. 地方裁量型(上記以外)
設置・運営の基準	児童福祉施設最低基準(省令)(児童福祉法第45条)による。	幼稚園設置基準(省令)(学校教育法第3条)による。	認可については、各県で定める認可基準による。
対象	保育に欠ける乳児・幼児・児童(児童には18歳未満まで含まれるが、一般的には0歳~5歳の乳児、幼児が対象となっている。一部、放課後の小学生等を受け入れている保育園もある)	満3歳から小学校就学の始期に達するまでの幼児(学校教育法第26条)。従来は小学校等の入学年齢と同様に4月1日に満3歳に達していることを条件とされていたが、近年一部の幼稚園では満3歳の誕生日の前日から入園できるようになった。また、子育て支援として、2歳児の保育を実施している幼稚園もある。	保育に欠ける子どもも欠けない子どもも受け入れて、教育・保育を一体的に行う。すべての子育て家庭を対象に子育て不安に対応した相談等を提供する。
入所(園)の申込	市町村は保育に欠ける乳・幼児等を保護者から申込があったときは保育所において保育しなければならない(児童福祉法第24条)。以前は自治体に申込み、自治体が入園する保育園を割り振っていたが、最近は保護者が直接、入園を希望する保育園に申し込むことができるようになったところもある。以前は両親が就労していること等入所の条件が厳密であったが、最近は条件がいくぶん緩和されてきたようである。	直接、入園を希望する幼稚園に申し込む。園長が入園を決定するが、希望者が定員を上回る場合等は抽選等の方法をとる場合もある。	原則として、設置者と保護者との直接契約。ただし、保育所型及び幼保連携型の認定こども園においては、保育に欠ける子の認定について、当該保育所から市町村に申込書が送付され、市町村から施設に保育に欠ける子の通知を行う。
教育・保育内容の基準	保育所保育指針による。	幼稚園教育要領による。	幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針による。

参考) 奈良県橿原市幼稚園適正配置検討委員会第9回「3. 保育所と幼稚園と認定こども園との比較表」

資料3 地域子ども・子育て支援事業について

内閣府 子ども・子育て支援新制度説明会資料（平成27年1月23日）より

・市町村は、子ども・子育て家庭等を対象とする事業として、市町村子ども・子育て支援事業計画に従って、以下の事業を実施する。（子ども・子育て支援法第59条）
・国又都道府県は同法に基づき、事業を実施するために必要な費用に充てるため、交付金を交付することができる。
・費用負担割合は国・都道府県・市町村それぞれ1/3（妊婦健診については交付税措置）

①利用者支援事業【一部新規】

子どもや保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の利用について情報収集を行うとともに、それらの利用に当たっての相談に応じ、必要な助言を行い、関係機関等との連絡調整等を実施する事業

②地域子育て支援拠点事業

家庭や地域における子育て機能の低下や、子育て中の親の孤独感や負担感の増大等に対応するため、地域の子育て中の親子の交流促進や育児相談等を行う事業

③妊婦健康診査

妊婦の健康の保持及び増進を図るため、妊婦に対する健康診査として、①健康状態の把握、②検査計測、③保健指導を実施するとともに、妊娠期間中の適時に必要に応じた医学的検査を実施する事業

④乳児家庭全戸訪問事業

生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境等の把握を行う事業

⑤養育支援訪問事業

乳児家庭全戸訪問事業などにより把握した、保護者の養育を支援することが特に必要と判断される家庭に対して、保健師・助産師・保育士等が居宅を訪問し、養育に関する相談支援や育児・家事援助などを行う事業

・子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業（その他要保護児童等の支援に資する事業）

要保護児童対策地域協議会（子どもを守る地域ネットワーク）の機能強化を図るため、調整機関職員やネットワーク構成員（関係機関）の専門性強化と、ネットワーク機関間の連携強化を図る取組を実施する事業

⑥子育て短期支援事業

母子家庭等が安心して子育てしながら働くことができる環境を整備するため、一定の事由により児童の養育が一時的に困難となった場合に、児童を児童養護施設等で預かる短期入所生活援助（ショートステイ）事業、夜間養護等（トワイライトステイ）事業

⑦子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）

乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業

⑧一時預かり事業【一部新規】

家庭において一時的に保育を受けることが困難になった乳幼児について、保育所、幼稚園その他の場所で一時的に預かり、必要な保護を行う事業

⑨延長保育事業【一部新規】

保育認定を受けた子どもについて、通常の利用日及び利用時間以外の日及び時間において、保育所等で引き続き保育を実施する事業

⑩病児保育事業

病気の児童について、病院・保育所等に付設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育等を行う事業

⑪放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）【一部新規】

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室や児童館等において適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業

⑫実費徴収に係る補足給付を行う事業【新規】

保護者の世帯所得の状況等を勘案して、特定教育・保育施設等に対して保護者が支払うべき日用品、文房具その他の教育・保育に必要な物品の購入に要する費用又は行事への参加に要する費用等を助成する事業

⑬多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業【一部新規】

新規参入事業者に対する相談・助言等巡回支援や、私学助成（幼稚園特別支援教育経費）や障害児保育事業の対象とならない特別な支援が必要な子どもを認定こども園で受け入れるための職員の加配を促進するための事業

各事例のポイント

I. 生活設計とワーク・ライフ・バランス

「これからの家庭生活と社会 ～山形県の様々な取り組みから考えよう～」

- 本県の現状についての調べ学習や発表などを取り入れ、男女が相互に協力して家庭を築くこと、社会全体で協力することの重要性について考えさせ、自分はどのような働き方をしたいかを考えさせる事例である。
- タブレットPCや実物投影機などのICT機器を活用して調べ学習を行うことにより、短時間で発表するための資料を準備させる工夫をしている。
- 各班の発表の評価表における評価の視点は、発表の態度ではなく発表内容について評価させており、発表内容に着目させ、聴き手自身の思考を深める手立てになっている。
- 調べ学習や発表は班で活動させるが、最後は自分が調べたこと、班でまとめたこと、他の班の発表内容を踏まえて、個人で将来どのような働き方をしたいかを考えさせている。ここでは、本時の学習内容から男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの視点を踏まえたいところである。
- 調べる内容や、調べ方（授業の時間が少ない場合は、教員が資料を準備することも考えられる）などは、学校の実情に応じてアレンジすることが可能である。

II. 男女が協力して家庭・社会を築くことの重要性

「男女が共に生きる ～県内高校生の『結婚・子育て・仕事等』についての意識調査を活用して～」

- 実際に高校生が回答した意識調査の結果を活用して、男女相互の尊重と信頼関係のもとで共に協力して家庭を築くことの意義や重要性を考えさせる事例である。
- 生徒にとっては同じ高校生の意識調査の結果は身近であり、興味・関心を高めることができる。
- 意識調査における男女差については、性差だけでなく、育ってきた環境の違いなどの個人差があることに配慮する必要がある。
- 既習内容の男女共同参画や性別役割分業意識、職業労働と家事労働などの現状と課題を踏まえた上で取り組ませることにより、具体的にどのような意識や行動が必要か生徒に考えさせたい。

III. 親や家族の役割・子供との関わり方

「子育てにおける保護者の役割と保育の重要性を考える」

- 具体的な保育場面を設定して、自分が親だったらどのように対応するか考えさせる事例である。
- 中学校では、子供が育つことを学び、高等学校では親の立場や育てる側の視点で学習することがポイントとなる。シナリオを作成することにより、親として子どもの気持ちに寄りそったり、登場人物の気持ちの変化を考えたりすることにより、相手の気持ちを尊重しつつ問題を解決するにはどうすればよいのか、コミュニケーションの取り方について考えさせたい。
- 同じ場面でシナリオを考えた生徒同士のグループで、なぜそうするのがよいのかという視点から話し合いをすることで、親としての役割を考えさせ、その対応が子供の発達を促すことを理解させたい。
- 夫婦の役割、働きながら子供を育てる、社会的な生活習慣の形成、子供の栄養や家族関係など様々な視点から親の役割を考えることができる場面が設定されている。親以外の人物も登場するので、親でなくとも大人として、子育てや子育て支援にどう関わっていくかも考えさせたい。
- ロールプレイングに発展させる場合は、ロールプレイングは自分と異なる立場の人を理解するための学習活動であるので、人を大切に、相手を尊重するなどの点に留意する。

IV. 子育て環境と子育て支援①

「地域の子育て環境について考える」

- 地域の子育て環境について「知識構成型ジグソー法」で考えさせる事例である。
- 山形県や学校の所在地や生徒が住んでいる市町村などの子育て環境について取り上げることが考えられる。
- 本事例ではエキスパート活動で調べ学習を取り入れているが、教師があらかじめエキスパート資料を準備することも考えられる。
- 「知識構成型ジグソー法」では、エキスパート活動、ジグソー活動、クロストークの過程で、言葉にしながらかえることや様々な意見を「集めて編集する」ことで、答えを「つくり出す」知性を育てることができる。自分で答えを作り、納得することで、知識が活用できるものになる。
- 各自治体の担当部局との連携も考えられる。外部講師として地域の子育て支援の現状を話してもらい、授業の最後に一人ひとりが考えた地域の子育て環境をより良くするために必要なことを各自治体の担当部局に提案しアドバイスをもらう、など授業を発展させることもできる。

V. 子育て環境と子育て支援②

「子供を生み育てる意義や子育てを支えるために社会に求められる支援とは何か考える」

- 前掲の「IV. 子育て環境と子育て支援①」と同じく「知識構成型ジグソー法」で、子供を生み育てる意義や子育てを支えるために社会に求められる支援を考えさせる事例である。
- 少子社会の中で子供を生み育てる意義を様々な視点から考えさせることにより、子供という存在を理解し、子供を取り巻く環境の変化について認識させ、子供の権利と福祉の学習につなげることもできる。
- 本事例では、エキスパート資料を教師が準備している。エキスパート資料は課題を解くために必要な部品となる資料であるため、各資料から読み取れる内容をもとに考えることによって、課題に対して答えを出すことができるようにする必要がある。その際、課題に対して期待される答えの中に含まれる要素を取り出し、その要素がエキスパート資料に含まれるようにする。エキスパート資料の分量が多すぎたりすると、その理解だけで時間がかかってしまうので注意が必要である。
- 「知識構成型ジグソー法」では、どのような課題を設定するか、課題の答えを導くために、どのようなエキスパート資料を準備するかが鍵となる。他校の家庭科教員と共同で資料を作成し、同じ課題で授業に取り組んでみることも考えられる。

〈参考文献〉

- 『高等学校新学習指導要領の展開 家庭科編』石井克枝編著（明治出版株式会社）
- 『家庭科ワークブック〈人間の発達と保育〉』牧野カツコ編著（東京書籍株式会社）
- 『「協調学習」実践ハンドブック「わかった！」でおわらない授業をつくる～質の高い学びを目指して～』山形県教育センター